
ROUNDGAME-ラウンドゲーム-

川名亜霧

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ROUND GAME ーラウンドゲームー

【Nコード】

N42310

【作者名】

川名亜霧

【あらすじ】

ごく普通の高校生、松山成人^{まつやなると}は兄、魁夜^{かいや}にあるショーのチケットを手渡される。
幼なじみの峻羅^{たから}達三人とショーに行く成人。そこで行われていたのは悪魔のゲームだった…

悪夢の始まり

あの頃俺達は自分を見失っていたのかもしれない
あの頃俺達は現実を見失っていたのかもしれない

あんな“遊び”にはまってしまった俺達は――――

※※※1999年※※※

俺は松山^{まつやま}成人。三島高等学校の一年。

「なーると。おはっ」

こいつ―茶髪に黒いメガネ―は俺の友達、池沢^{いけざわ}峻羅^{すなから}。同じく一年。
峻羅とは小さい頃から幼なじみ。

「なるとー。俺達のこと忘れてね??」

「あ、ごめん」

こいつらも同じく幼なじみ。

チビでめちゃくちや甘えん坊^{なかざとく}の中里玖埜^{ひらいけり}。
イケメンで兄貴分の平池莉斗。

昔からずっと一緒にいる。

「成人クン呼ばれてるよおー」

玖埜が指差す先には一番嫌いな奴が。

「成人ー。ちょっと来いよ」

黒髪に赤いメッシュ。制服規定なんて守る気もないとでもいうような服装。松山^{まつやま}魁夜^{かいや}。俺の――大嫌いな双子の兄。

「あんだよ」

手招きする魁夜に着いていくと中庭に着いた。

「お前さ、峻羅、玖埜と莉斗でここに行かねえか？」

魁夜が見せてきたのは四枚のチケット。

それが…悪夢の始まりだった。

悪魔の賭け

魁夜から手渡されたチケットにはこう書いてあった
+ROUNDGAME+
今こそ世界を変える

10. 3

夜7時より開催

「ROUNDGAME?」

「友達がさ、めちゃくちゃおもしろいから行ってみろってくれたんだ。でも四枚も使わねーし」

「峻羅達も行かねーだろ」

「とりあえず、貰ってくれるだけでいいからさ、な?」

魁夜は半ば強引にチケットを俺に押し付けて走って行ってしまった。

俺は教室に戻って真っ先に峻羅にチケットを見せた。

「成人、これ何?」

「魁夜が…」

俺は峻羅にさっきの魁夜との会話を話した。

「これ、なんか不吉なものだった?」

「さあ?」

「貰ってくれるだけでいい、つまり手放したい。そう考えると魁夜がこれを渡したい理由は少ししかない」

得意げにメガネをくい、とあげた峻羅は話を続ける。

「例えば…」

「例えば?」

「持っているだけで不吉なことに巻き込まれるとか」

「とか」

「命がねらわ…」

「ストップ！」

俺は内心不安だった。でも峻羅の話を聞くと内心どころじゃなくなる、そう思ってた得意顔の峻羅を置いてって莉斗と玖埜のところへ行った。その時に俺の気持ちは固まっていた。

「世の中刺激が必要なんだよ」

俺はそう呟き玖埜たちに声を掛けた。

「あ、成人クーン！」

俺はチケットを二枚取り出して

「これ、ショーがあんだって。魁夜が言ってた。みんなで行かねえ？」

いつもの調子で誘った。

「行くヨ！」

「俺もー！」

莉斗と玖埜はOKしてくれた。あとは…

「峻羅ー」

「行く」

俺は驚いた。

こいつも…俺と同じだ。

俺達は悪魔の賭けに出た

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4231o/>

ROUNDGAME-ラウンドゲーム-

2010年10月30日22時39分発行